

航空機の成聖祈祷

輔司誦

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。

常套の始め

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。
天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

司誦

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

アミン。

主憐めよ(三次)。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

来たれ、我等の王神に叩拝せん。

来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第三百三十八聖詠

主よ、爾我を試みて我を識る。我が坐し、我が起つことは、爾之を識る、爾遠きより我の念慮を知る。我が往くにも、我が息うにも、爾我を環る、我が悉くの途は爾之を知れり。我が舌未だ言なきに、爾、主よ、已に全く之を識る。爾前後より我を圍み、爾の手を我に置く。爾の知識は我が為に奇異なり、高尚なり、我之を測る能わず。我安に往きて爾の神を避けん、安に走りて爾の顔を逃れん、天に升らんか、爾彼處にあり、地獄に降らんか、彼處にも爾あり、暁の翼を取りて、海の極に移らんか、彼處にも爾の手我を導き、爾の右の手我を援けん。或は云わん、闇冥は我を隠し、我を環る光は夜とならんと、然れども闇冥も爾の前に暗からしめざらん、夜も明なること晝の如く、闇冥は光の如し。蓋爾我が臍腑を造り、我が母の腹の中に我を織れり。我爾を讚美す、蓋我奇妙に造られたり。爾の作為は奇異なり、我が靈全く之を知る。我が奥密に造られ、腹の深處に形づくらるる時、我が骨爾に隠れず。我が胚胎は、爾の目之を見たり、我が為に定められし日は、其一も未だあらざりし先に、皆爾の書に記さ

輔詠

れたり。神よ、爾の念慮は我が為に何ぞ高き、其数は何ぞ多き。我之を計らんか、然れども其多きこと沙に過ぐ、我寤むる時、尚爾と偕にす。嗚呼神よ、願わくは爾悪者を撃たん、血を流す者よ、我に離れよ。彼等爾に向いて悪を言い、爾の敵は空しきことを謀る。主よ、我豈に爾を疾む者を疾まざらんや、我豈に爾に逆う者を厭わざらんや、我甚しき疾を以て彼等を疾み、彼等を以て我が敵となす。神よ、我を試みて、我が心を知り、我を試みて、我が念慮を知り給え、且觀よ、我危き途に在るにあらずや、乃我を永遠の途に向わしめ給え。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光荣は爾に帰す。(三次)

主に祈らん。

主憐めよ。

祝文

ヘルワイムに乗り、炎の車にてイリヤを天に引き上げ、爾の神使等を以てアワクム及び輔祭フィリップを空中に挙げ、爾の母の就寝に使徒等を集め賜いし主・神

詠 や、爾自ら此航空機〔某〕を聖にし、此に乗りて旅行する者に福を降して、彼（等）を凡の凶悪より守り給え。蓋爾は独全能なる者なり、我等光荣を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。
アミン。

※（司祭は、機体の内外に聖水を灌いで曰く。）

司 此の航空機は、此の聖水の灌ぐるを以て降福・成聖せらる、父及び子及び聖神の名に依りてなり。（三次）
詠 アミン。（毎時応答する）

輔 睿智。

司 至聖なる生神女や、我等を救い給え。
詠 ヘルワムより尊くセラフイムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。
司 ハリストス神我等の恃や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。

詠 光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。
司 福を降せ。

司 ハリストス我等の真の神は、その至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。
詠 アミン。

幾歳も

（必要に応じて唱える。）

輔 主や、今新たに成聖せられし此の航空機の前に立ちて祈る爾の僕（婢）〔某〕に、萬福にして平安なる度生、壮健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳にも護り給え。
詠 幾歳も。（三次）

※（司祭は、聖十字架に接吻させる時、彼（等）に聖水を灌ぎ祝福する。）